

デジタル技術と日本美術体験が融合した展覧会 「未来の博物館」

東京国立博物館にて10月18日から開催

〔会期:2022年10月18日(火)–12月11日(日)〕

文化財活用センター〈ぶんかつ〉と東京国立博物館(トーハク)は、2022年10月18日(火)より、東京国立博物館創立150年記念 特別企画「未来の博物館」を開催します。



画像①

「未来の博物館」は、東京国立博物館の所蔵品を元に制作したデジタルコンテンツ、複製などで構成する体験型の展覧会です。①〈時空をこえる8K〉(本館/特別5室)、②〈四季をめぐる高精細複製屏風〉(本館/特別3室)、③〈夢をかなえる8K〉(東洋館/エントランス)という3つの会場で、デジタル技術と日本美術のコラボレーションにより未来へとつながる鑑賞体験を実現します。美術はあまり知らないという方から、東京国立博物館へよくお越しになる方まで、誰もが気軽に日本美術を楽しむことのできる機会となるでしょう。

また、「未来の博物館」でとりあげるほとんどの日本美術作品(14件)は、同時期開催の特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」(平成館)や総合文化展に展示されます。「未来の博物館」をみたあとに、ホンモノの日本美術をじっくり鑑賞すると、一味違った見え方になるかもしれません。

この秋、「未来の博物館」の3つの会場とトーハク全体で、日本美術の魅力を発見してください。

「未来の博物館」特設WEBサイト=<https://cpcp.nich.go.jp/mirai2022/>

概要

デジタル技術×日本美術体験

ここはみんなの夢をかなえる「未来の博物館」。大画面に拡大された絵の中を歩いてみたり、屏風に描かれた四季を感じてみたり、光を照らして仏像をじっくりと調べたり。最先端のデジタル技術と高精細複製品を使って、新しい日本美術の鑑賞体験を実現します。

できたらいいな、こんなこと。そう思う私たちの想像力が、展示室での不可能を可能にします。

*所蔵記載の無い作品は、すべて東京国立博物館所蔵です。

*「未来の博物館」の会場内は一部をのぞき、フラッシュ無しで写真、動画撮影が可能です。

「未来の博物館」3つの会場それぞれのみどころ

① 時空をこえる8K 本館／特別5室 主催：NHK

遠く離れた法隆寺・夢殿の空間や、国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」に描かれた400年前の京の都の賑わいを、大画面に映し出された映像を通して、その場にいるように味わう。そんな時空をこえて文化財と出会う鑑賞体験を、最新の8K映像技術や3DCG技術を用いた“8K文化財”でかなえます。

■ 空間をこえ、奈良の法隆寺・救世観音が目の前に

東京からおよそ400キロメートル離れた奈良に位置し、世界最古の木造建築群を擁する法隆寺。その東院伽藍に、聖徳太子を追慕して建てられたお堂、夢殿(ゆめどの)があります。夢殿本尊である国宝「観音菩薩立像 救世観音(くせかんのん)」は、長い間秘仏とされ、法隆寺の僧侶でさえ見ることはありませんでした。

このコーナーでは、8Kの3DCG技術でとらえた金色に輝く救世観音のお姿を、幅13メートルにもおよぶ特大3面スクリーンでご覧いただきます。遠く離れた地の仏像が、まさに目の前にあらわれたかのような迫力です。

画像②



会場イメージ図(8K文化財 国宝「観音菩薩立像 救世観音」法隆寺)

<空間をこえた出会い—法隆寺 謎に満ちた金色の秘仏>

■ 時間をこえ、400年前の都のにぎわいをそぞろ歩き

国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」は、江戸時代に活躍した絵師・岩佐又兵衛が、約400年前の京都の街並みを俯瞰するかのよう描いた大パノラマの絵画です。6曲1双の屏風に、武士や商人のみならず、かぶき者や酔っ払いまで、じつに老若男女2500人を超える人びとが遊び、暮らすさまが生き生きと描きだされています。幅約10メートルもの超高精細大型ディスプレイに映し出される洛中洛外図屏風の世界。「食と享楽」「美と芸能」「歴史と文化」というテーマで、土井善晴さん[料理研究家]、伊集院光さん[タレント]、IKKOさん[美容家]、林家正蔵さん[落語家]、磯田道史さん[歴史学者]、山崎怜奈さん[タレント]ら6人のナビゲーターがご案内します。江戸時代にタイムトリップし、活気あふれる京の都を歩いているかのような体験です。

画像③



〈時間をこえた出会い—洛中洛外 400年前の京都へ〉

国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」(右隻)
岩佐又兵衛筆、江戸時代・17世紀

<時間をこえた出会い—洛中洛外 400年前の京都へ>

■ 8Kクオリティの3DCG文化財を自在に動かす

縄文時代の土偶、室町時代の甲冑、江戸時代の能面。これらの文化財を回転させたり、色を変えたりすることは、従来の展示ケース越しの鑑賞ではできません。しかし、このコーナーの8Kモニターをのぞいてみてください。展示室では見ることのできなかつた文化財の裏側や内側、美しい造形の細部まで、自身の操作でじっくり鑑賞いただけます。

画像④



〈デジタル ハンズオンギャラリー〉

重要文化財
の98号。に於て
「能面 小面」
(天下一時内) 桃井
金吾筆、江戸
時代・17世紀

重要文化財「程島系肩赤威願丸」
室町時代・15世紀

重要文化財「遮光器土偶」
青森県つがる市木造庵々岡出土
縄文時代(晩期)・前1000~前400年

<デジタル ハンズオンギャラリー>

② 四季をめぐる高精細複製屏風 本館／特別3室 協賛:キヤノン株式会社

東京国立博物館が誇る4つの国宝、「花下遊楽図屏風」「納涼図屏風」「観楓図屏風」「松林図屏風」は、日本の四季の美しさを私たちに伝えてくれます。屏風の中を歩き、描かれた四季の風景を感じる鑑賞体験を、高精細複製品へのプロジェクションマッピングでかなえます。



【春】 国宝「花下遊楽図屏風」(左隻) 狩野長信筆／江戸時代・17世紀



【夏】 国宝「納涼図屏風」 久鳳守景筆／江戸時代・17世紀



【秋】 国宝「観楓図屏風」 狩野秀頼筆／室町～安土桃山時代・16世紀



【冬】 国宝「松林図屏風」(右隻) 長谷川等伯筆／安土桃山時代・16世紀

画像⑤

■ 日本絵画の世界にはいり、描かれた四季をめぐる

《春》 花下遊楽図屏風 (かかゆうらくずびょうぶ)

江戸時代のはじめ頃のお花見の様子を描いた屏風です。映像では、桜と海棠が咲きほこるなか、着飾った女性たちの宴が催されるうらかなシーンが蘇ります。

《夏》 納涼図屏風 (のうりょうずびょうぶ)

夕顔棚の軒端の下で満月を眺める三人のもとに涼やかな風があたる、普段の人々の暮らしの中の一瞬の風景が描かれています。映像では夜を迎える風景が映し出されます。月の満ち欠けとともに描かれた情景を見ると、私たちのごく身近にある平穏な暮らしに見えてくるかもしれません。

《秋》 観楓図屏風 (かんふうずびょうぶ)

京都洛北の高雄にある清滝川のほとりで、色づいた紅葉を楽しむ人々を描いた屏風です。映像では、紅葉が風にゆれ、雁がはばたき、雪化粧の愛宕山を背に白鷺が舞い降りる、そんな冬への移り変わりの中で、紅葉と宴を楽しむ人々の姿を見ることができます。

《冬》 松林図屏風 (しょうりんずびょうぶ)

晩冬の松林が描かれた作品で、日本水墨画の最高傑作とたたえられています。映像では晩冬の松林の一日が映し出されます。朝もやの中から松林が浮かび上がり、陽の光によって松の色が変化し、雪が降り積もり、夜を迎えます。

未来へ受け継いでゆく「文化財」

屏風は、もとは部屋を仕切ったり、人目や風をさえぎるための道具であるとともに、生活空間を彩る調度品として大切にされてきました。過去の生活の中で生まれた道具が、人の手から手へ受け継がれ、今ここにあります。屏風の中に広がる風景や音、空気などを想像しながら、屏風を描き、使い、受け継いできた人々の思いも身近に感じることで、このさきの未来へ受け継いでゆければ幸いです。

*「花下遊楽図屏風」「観楓図屏風」の高精細複製品はキヤノン株式会社との共同研究プロジェクトで制作し、「納涼図屏風」「松林図屏風」の高精細複製品は京都文化協会とキヤノンが共同で取り組んでいる綴プロジェクト(正式名称:文化財未来継承プロジェクト)よりご寄贈いただきました。

③ 夢をかなえる8K 東洋館/エントランス 協賛:シャープ株式会社

もしも、鎌倉時代を代表する仏像の細部の表現を、光を照らしてじっくりと調査できたら。名だたる茶人が手にした名碗「大井戸茶碗 有楽井戸」を手に取り、さまざまな角度から眺めることができれば。展示室では不可能な夢の鑑賞体験を、8Kの高精細画像を用いたオリジナルのアプリケーションと操作デバイスでかなえます。



■ 名茶碗を手にとる夢の体験が進化

「大井戸茶碗 有楽井戸(うらくいど)」をはじめとする名碗を、8Kモニターでじっくり鑑賞します。かたちも重さもホンモノの文化財そっくりの茶碗型ハンズオンコントローラーは、まるでお茶碗を手にとって眺めているよう。モニター上に映し出された高精細画像が、コントローラーと連動し、360度好きな角度から鑑賞できます。

2020年の実証実験で好評いただいた「ふれる・まわせる名茶碗」。今回は内容が一層充実した進化版が体験できます。鑑賞できるお茶碗の数は3碗から6碗に増えました。九州国立博物館所蔵の「油滴天目(ゆてきてんもく)」や愛知県陶磁美術館所蔵「黄瀬戸胴紐茶碗(きせとどうひもちゃわん)」など、さまざまな種類の名碗を比較しながら楽しめます。

<8Kで文化財—ふれる・まわせる名茶碗>

画像⑥

*本コンテンツは、文化庁「令和3年度 地域ゆかりの文化資産地方展開促進事業(先端技術を活用した文化資産コンテンツ制作プロジェクト)」により制作したものです。(制作協力:九州国立博物館・愛知県陶磁美術館)

■ 大迫力8Kモニターで仏像の調査体験



ガンダーラ、中国、日本を代表する3体の仏像。その高精細3DCG画像を、120インチの大型8Kモニターに映し出します。モニターに近づけば仏像が拡大され、のぞき込めば角度が変わるなど、8Kの3DCG画像があなたの動きに連動し、まるで目の前で仏像と向き合っているかのような臨場感あふれる鑑賞体験が実現します。

懐中電灯(ライト)型の操作デバイスでモニター上の仏像に光をあてることで、ホンモノの鑑賞では見えづらい細部の表現が浮かび上がります。また、“みどころポイント”をライトで照らすと、鑑賞の鍵となる情報が現れます。学芸員が文化財を調査するように、仏像の注目ポイントをじっくり見てみましょう。

<8Kで文化財—みほとけ調査>

画像⑦

「未来の博物館」でとりあげる日本美術の展示情報
 ～トーハクの館内に展示されているホンモノを見にいこう～

トーハクの展示室でホンモノを鑑賞できる! 「未来の博物館」でとりあげた日本美術の展示情報



	作品名称 作者/出土/時代世紀等	実物作品の展示場所	展示期間
第1会場	① 国宝「洛中洛外図屏風(舟木本)」 岩佐又兵衛筆/江戸時代・17世紀	平成館2階 特別展*	11月15日～12月11日
	② 重要文化財「遮光器土偶」 青森県つがる市木造亀ヶ岡出土/縄文時代(晩期)・前1000～前400年	平成館2階 特別展*	10月18日～12月11日
	③ 重要文化財「裡烏糸肩赤威胴丸」 室町時代・15世紀	平成館2階 特別展*	10月18日～12月11日
	④ 重要文化財「能面 小面」(天下一河内) 焼印・金春家伝来/江戸時代・17世紀	本館2階 9室	10月25日～12月25日
第2会場	⑤ 国宝「花下遊楽図屏風」 狩野長信筆/江戸時代・17世紀	平成館2階 特別展*	10月18日～11月13日
	⑥ 国宝「納涼図屏風」 久隅守景筆/江戸時代・17世紀	平成館2階 特別展*	10月18日～11月13日
	⑦ 国宝「観楓図屏風」 狩野秀頼筆/室町～安土桃山時代・16世紀	平成館2階 特別展*	11月29日～12月11日
	⑧ 国宝「松林図屏風」 長谷川等伯筆/安土桃山時代・16世紀	平成館2階 特別展*	10月18日～10月30日
第3会場	⑨ 重要美術品「大井戸茶碗 有楽井戸」 朝鮮時代・16世紀	平成館2階 特別展*	10月18日～12月11日
	⑩ 「志野茶碗 銘 振袖」 安土桃山～江戸時代・16～17世紀	平成館2階 特別展*	10月18日～12月11日
	⑪ 「黒楽茶碗 銘 尼寺」 長次郎/安土桃山時代・16世紀	本館2階 4室	11月22日～2月12日 ²⁰²³
	⑫ 重要文化財「菩薩立像」 鎌倉時代・13世紀	本館1階 11室	8月30日～12月25日
	⑬ 重要文化財「十一面観音菩薩立像」 唐時代・7世紀	本館1階 11室	8月30日～12月25日
	⑭ 「菩薩立像」 クシャーン朝・2世紀	東洋館2階 3室	通年展示

すべて東京国立博物館の所蔵です。

※平成館2階で開催する東京国立博物館創立150年記念 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」(会期=2022年10月18日～12月11日)の入場には、事前予約(日時指定)および別途観覧料が必要です。(総合文化展チケットではご覧いただけません)

画像⑧

本展のメインビジュアルは書籍装画やパッケージなど幅広く活躍するイラストレーター、北澤平祐さんが担当!

北澤 平祐(きたざわ へいすけ) <http://www.hypehopewonderland.com/>

アメリカに16年間在住後、帰国し、イラストレーターとしての活動を開始。多数の書籍装画や、フランセ、アフタヌーンティーなどの商品や広告パッケージ、サンリオとのグリーティングカードシリーズまで幅広い分野でイラストを提供。近著に『ルッコラのちいさなさがしものやさん』(白泉社)、『The Current 北澤平祐作品集』(玄光社)、『ゆるゆる』(講談社)、『ぼくとねこのすれちがい日記』(ホーム社/集英社)。

開催概要

名称 東京国立博物館創立150年記念 特別企画「未来の博物館」

会場 東京国立博物館(東京都台東区上野公園13-9)
 第1会場〈時空をこえる8K〉本館/特別5室
 第2会場〈四季をめぐる高精細複製屏風〉本館/特別3室
 第3会場〈夢をかなえる8K〉東洋館/エントランス

会期 2022年10月18日(火)～12月11日(日)

観覧料 総合文化展観覧料もしくは開催中の特別展観覧料[観覧当日に限る]が必要です

主催 東京国立博物館、文化財活用センター、NHK(第1会場)

協賛 キヤノン株式会社、シャープ株式会社

「未来の博物館」特設WEBサイト=<https://cpcp.nich.go.jp/mirai2022/>

*総合文化展観覧料は、一般1,000円、大学生500円、高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料。

*大学生の方は、学生証をご提示ください。

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は、総合文化展について無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。

*障がい者とその介護者各1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

*東京国立博物館のガイドラインに従い感染防止対策を実施します。



東京国立博物館

明治5年(1872)創立、今年150周年を迎えた日本でもっとも長い歴史を持つ博物館です。収蔵する文化財は約12万件。日本から中国、朝鮮半島、西アジア・エジプトまでの地域を網羅し、土器や土偶などの考古遺物から浮世絵や刀剣、甲冑、近代絵画など、日本の美術史をたどることのできるコレクションとなっています。

東京国立博物館
創立150周年記念特設サイト
<https://www.tnm.jp/150th/>

Twitter
@TNM PR 東京国立博物館(トーハク)広報室
<https://twitter.com/TNM PR>

Instagram
@TNM PR 東京国立博物館(トーハク)広報室
https://www.instagram.com/tnm_pr/



文化財活用センター

2018年に国立文化財機構に設置された、文化財活用のためのナショナルセンターです。「文化財を1000年先、2000年先の未来に伝えるために、すべての人びとが、考え、参加する社会をつくる」というビジョンを掲げ、「ひとりでも多くの人が文化財に親しむ機会をつくる」ことをミッションとして、さまざまな活動をしています。

文化財活用センター(ぶんかつ)
WEBサイト
<https://cpcp.nich.go.jp/>

Twitter
@cpcp.nich ぶんかつ【文化財活用センター】
<https://twitter.com/cpcp.nich>

Instagram
@cpcp.nich ぶんかつ【文化財活用センター】
<https://www.instagram.com/cpcp.nich/>

◇ご取材・画像お申込み◇

特別企画「未来の博物館」広報事務局
(共同PR内)担当:三井

E-mail: mirai2022-pr@kyodo-pr.co.jp

TEL: 03-6264-2382

◇本展覧会についてのお問い合わせ◇

国立文化財機構 文化財活用センター 企画担当

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館東洋館5階

E-mail: cpcp@nich.go.jp TEL: 03-5834-2856(直通)